

1. 教育目標

麻酔科学では、周術期における侵襲制御医学の見地から麻酔科学における基礎および臨床知識を習得する。特に、手術侵襲に対する生体反応に注目し、周術期の内分泌系・免疫系・体液動態等について基礎および臨床研究を行うことにより日常臨床に役立つ知見を得、新規の麻酔管理法やモニターの開発等を目標とする。また疼痛制御科学においては、周術期の痛みや慢性疼痛、がん性疼痛における病態原因の解明および治療に関わる基礎的臨床的研究を行なうことにより、急性痛と慢性痛の理解を深め、新規疼痛治療の開発等を目標とする。

2. 到達目標

- (1) 麻酔科学における最近の知見に関する研究論文を取り上げ、論文内容を評価することにより論理的思考を身につける。
- (2) 麻酔科学の臨床テーマについて基礎および臨床研究を計画し、指導者のもとでデータ収集を行なう。
- (3) 患者が有している痛みの病態に関する検索を進めることが出来る。
- (4) 侵害受容性疼痛に対する治療計画を立案し、臨床的に実施することが出来る。
- (5) 神経障害性疼痛に対する治療計画を立案し、臨床的に実施することが出来る。
- (6) 痛覚変調性疼痛に対する治療計画を立案し、臨床的に実施することが出来る。
- (6) 慢性疼痛やがん性疼痛に対する治療計画を立案し、臨床的に実施することが出来る。
- (7) 慢性疼痛の臨床例に対する区域麻酔や脊髄刺激療法を含む、interventional な治療法を実施することが出来る。
- (8) 採取したデータの分析方法、統計学的手法を習得し、研究成果を学会および学術誌で発表する。

3. 成績評価の方法と基準

成績の評価は、本学で定められた「成績の評価基準」に基づき、到達目標に対する達成度及び修得すべき基礎知識・技能の修得度により行う。

口頭試問の実施（20%）、研究成果の発表（50%）、臨床カンファでの発表（30%）

4. 教科書・参考書

- ・Miller's Anesthesia
- ・Textbook of Pain

5. 準備学習

予習としては、関連文献で検索し、知識を整理して授業・実習に臨むこと。（1時間以上）

復習としては、講義内容を整理し、ノートなどにまとめておくこと。（1時間程度）

6. フィードバック方法

当該年度修了時に提出する「研究計画書」、又は「研究進捗・指導状況報告書」によりフィードバックを実施する。

(第1学年・昼間開講)

【麻酔科学・疼痛制御科学】

種別	内容	担当教員 (2名以上)	曜日/時限	期間	単位	場所
演習	研究経過報告と関連論文の抄読	廣瀬主任教授 狩谷臨床教授	月曜/1限	通年	4	カンファレンスルーム
実習	臨床研究 (1)	植木准教授 奥谷講師	水曜/1・2限	通年	4	手術センター
実習	臨床研究 (2)	狩谷臨床教授 下出講師	木曜/1・2限	通年	4	手術センター
講義	麻酔科学と疼痛制御科学の基礎	廣瀬主任教授 奥谷講師	金曜/3限	半年	2	カンファレンスルーム

(第1学年・夜間開講)

種別	内容	担当教員 (2名以上)	曜日/時限	期間	単位	場所
演習	研究経過報告と関連論文の抄読	廣瀬主任教授 狩谷臨床教授	月曜/6限	通年	4	カンファレンスルーム
実習	臨床研究 (1)	植木准教授 奥谷講師	水曜/6・7限	通年	4	手術センター
実習	臨床研究 (2)	狩谷臨床教授 下出講師	木曜/6・7限	通年	4	手術センター
講義	麻酔科学と疼痛制御科学の基礎	廣瀬主任教授 奥谷講師	金曜/6限	半年	2	カンファレンスルーム

(第2学年・昼間開講)

種別	内容	担当教員 (2名以上)	曜日/時限	期間	単位	場所
演習	研究経過報告と関連論文の抄読	廣瀬主任教授 狩谷臨床教授	月曜/1限	半年	2	カンファレンスルーム
実習	臨床研究 (3)	植木准教授 奥谷講師	水曜/1・2限	通年	4	手術センター
実習	臨床研究 (4)	狩谷臨床教授 下出講師	木曜/1・2限	通年	4	手術センター

(第2学年・夜間開講)

種別	内容	担当教員 (2名以上)	曜日/時限	期間	単位	場所
演習	研究経過報告と関連論文の抄読	廣瀬主任教授 狩谷臨床教授	月曜/6限	半年	2	カンファレンスルーム
実習	臨床研究 (3)	植木准教授 奥谷講師	水曜/6・7限	通年	4	手術センター
実習	臨床研究 (4)	狩谷臨床教授 下出講師	木曜/6・7限	通年	4	手術センター